

箕面市立光明の郷ケアセンター指定管理者候補者選定会議 議事概要

1. 選定会議の開催状況

- (1)開催日時：令和5年7月18日（火曜日）午後2時から午後3時15分まで
- (2)開催場所：箕面市立総合保健福祉センター2階大会議室
- (3)構成員：
- 北村清（健康福祉部長）
 - 村田尚記（総務部長）
 - 加藤玲子（市民部長）
 - 明石隆行（有識者・箕面市介護サービス評価専門員）
 - 安東由紀子（有識者・箕面市介護サービス評価専門員、
箕面市自立支援協議会構成員）
- (4)事務局：健康福祉部高齢福祉室
健康福祉部障害福祉室
- (5)応募者：社会福祉法人大阪府社会福祉事業団

2. 評価点について

評価項目	(社福) 大阪府社会福祉事業団
(1)提案金額に関する評価A	50.0／100
(2)応募者に関する評価B	86.0／100
(3)提案内容に関する評価C	80.4／100
合計 (A + B + C)	216.4／300

3. 選定会議の議事概要について

- (1)書類審査の確認等

（対象施設）箕面市立光明の郷ケアセンター

（スケジュール）

- ・公募に対し1法人の応募があり、本日の選定会議を開催
- ・9月議会に「指定管理者の指定の件」の議案を提出
- ・議決後、令和6年4月1日から次期指定管理期間を開始

（評価方法）

- ・提案金額に関する評価A（定量評価）（100点）
- ・応募者に関する評価B（定量的定性評価）（100点）
- ・提案内容に関する評価C（定性評価）（100点）

合計 (A + B + C)、300点で採点する。

- (2)提案内容の説明（プレゼンテーション）における主な質疑について

応募者からのプレゼンテーションの後、質疑応答を行った。

主な質疑については以下のとおり。

(質問) 災害時対応マニュアルについて、箕面市立光明の郷ケアセンターとしてのマニュアルはないのか。BCP の策定について進捗状況はどうなっているか。

(回答) 災害対応マニュアルは、箕面市立光明の郷ケアセンターを含め社会福祉法人大阪府社会福祉事業団としてのマニュアルとなっている。BCP の策定については今年度中に完了する予定。その他、施設ごとの発災時の人員配置や収容リストを作成し、総合防災訓練において活用している。

(質問) 苦情申立の方法について、どのように利用者や家族に周知しているか。

(回答) 苦情解決のしくみについて、施設の入口壁面に掲示しているほか、重要事項説明書に苦情解決責任者・受付者、公的な相談窓口を明記し周知している。

(質問) 苦情解決委員会の第三者委員は、どのようななかたか。

(回答) 地域の有識者 2 名である。

(質問) 第三者委員が直接受けた苦情はあるか。

(回答) 第三者委員が直接受けた苦情はないが、具体的な事案への助言をもらっている。

(質問) 苦情はどういったものが多いか。またどのような解決をされているか。

(回答) 送迎時の停車について、通行の妨げになる等の苦情がある。苦情があった場合は、危険がないよう安全を第一にし近隣住民へ配慮している。

(質問) 防災について、どのように地域連携をしているか。

(回答) 東小学校地区防災委員会に参加し、障害者など災害弱者のかたに関する支援について情報共有をしている。

(質問) 障害者について、箕面市立光明の郷ケアセンターで何名のかたが雇用されているか。

(回答) 箕面市立光明の郷ケアセンターでは 1 名雇用している。

(質問) 職員が相談しやすい体制づくりをどのように行っているか。

(回答) 年 4 回の個人面談を実施。また、月 1 回ハラスメント予防・防止委員会を特別養護老人ホーム白島荘と箕面市立光明の郷ケアセンターとで合同開催している。

(質問) 様式 1 9 の地域活動への取組 9 項目は、すでに実施しているものか、新たな取組か、具体的な実施状況は。

(回答) ①「地域での介護予防等の健康教室・認知症サポーター養成講座を開催」については、コロナ禍で休止したが、今後再開予定。

- ②「地域住民を対象とした体操教室、脳トレ教室、教養講座」については、コロナ禍で休止したが、今後再開予定。
- ③「保育所、小中学校との交流事業の企画、光明の郷ギャラリーの設置」については、コロナ禍で休止したが、今後再開予定。
- ④「地域の独居高齢者や高齢者世帯を対象にちょっとお手伝い隊の実施」については、令和4年度は4件実施。
- ⑤地域住民の交流の場として、「障害のあるご利用者による喫茶（地域サロン）」は、コロナ禍で休止したが、今後再開予定。
- ⑥「近隣小中学校への福祉体験学習」については、令和4年度は5か所実施。
- ⑦「地域に開かれた事業所」については、地域清掃に参加しているほか、挨拶を心がけている。
- ⑧福祉避難所、DWATによる研修実施や防災訓練などにより、地域の防災意識づくりに貢献していくほか、備蓄の整備などを継続する。
- ⑨センター広報紙「光明の郷だより」による発信は、継続実施中。

(質問) 市内居住者の雇用について、採用者数の何割程度を予定しているか。

(回答) 箕面市立光明の郷ケアセンター全体で8割ほどを考えている。

(質問) 福祉避難所が法改正により直接避難が可能となっていることについてどのように考えているか。

(回答) 直接避難については、法改正をふまえ、市との協議により、必要な対応を行う。

(質問) 収支見込みについて、特定提案の納付金を提案しているが、支出の「その他」に含まれているか。

(回答) 含まれている。

(質問) 共生型サービスについて、利用者や法人において、何かデメリットはあるか。

(回答) 実際に2名が登録されているが、障害があるかたが、高齢になっても安心してサービスを利用していただけるものであり、デメリットは感じていない。

(質問) 介護人材確保について、法人としての取り組みは。

(回答) ハローワークと連携してセミナー等を実施しているほか、特別養護老人ホーム白島荘で、道路に向けて横断幕を掲示するなどして、施設の認知度向上と、短時間のスポット勤務が可能とアピールし、積極的に募集活動を行い、効果を上げている。

(質問) コロナ禍を振り返り感染症対応での反省点や今後の取り組みなどは。

(回答) 初動対応にかかる共有のありかたやゾーン分けなどの反省点をふまえ、今後の課題や、法人の感染症対策チームとの連携などについて、施設の委員会で共有している。

(質問) 地域共生社会の実現のために、事業者としてどのような役割を地域で果たそうとしているか。

(回答) 箕面市立光明の郷ケアセンターの事業内容をふまえ、障害や介護について理解していただくことが重要と考え、出前講座などを行い、地域と繋がり、理解を進める活動を継続していく。

(3) 応募者に対する意見、評価

- ・災害時対応について、法人としてのマニュアルに加え、箕面市立光明の郷ケアセンターとしての具体的動きをマニュアル化しておくこと、また BCP の策定が重要と考える。

- ・研修などを積極的に実施していることは評価できる。スタッフにとって、より働きやすい環境づくりが今後とも重要と考える。

- ・応募書類・プレゼンテーション・ヒアリングに基づき評価した結果、評価点数は下記のとおりとなった。

評価点数 1,082点／1,500点

(構成員平均 216.4点／300点)

以上